

令和8年6月15日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が5月下旬～6月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、2ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	いもち病 (葉いもち)	並	発病株率：並【0.00%/0.03%】 気象予報：気温高(-) 降水量多(+)	<u>17</u>
	紋枯病	やや多	発病株率：並【0.00%/0.00%】 前年8月発病株率：やや多【9.26%/3.89%】(+) 気象予報：気温高(+)	<u>19</u>
	イネクロカメムシ	多	5月予察灯誘殺数：やや多【36.1頭/25.0頭】(+) 成幼虫寄生株率：多【0.57%/0.10%】(+) 気象予報：気温高(+)	-
	ニカメイガ	多	5月予察灯誘殺数：多【47.7頭/6.2頭】(+) 成幼虫寄生株率：並【0.00%/0.00%】 気象予報：気温高(+)	<u>21</u>
サツマイモ	ナカジロシタバ	多	寄生幼虫数：多【0.6頭/0.06頭】(+) 気象予報：気温高(+) 降水量多(-)	<u>22</u>
スイカ	うどんこ病	並	発病葉率：並【1.80%/4.20%】 気象予報：日照時間並	-
	炭そ病	やや多	発病葉率：やや多【1.60%/1.84%】(+) 気象予報：気温多(+) 降水量多(+)	-
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生葉率：並【2.60%/5.08%】 気象予報：気温高(+) 降水量多(-)	<u>41</u>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (5月下旬～6月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
サトイモ	アブラムシ類	並	成幼虫寄生葉率：並【37.07%/34.70%】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	42
	ハダニ類	やや少	成虫寄生葉率：少【5.33%/11.54%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	-
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	幼虫寄生株率（サトイモ）：並【0.00%/0.08%】 寄生幼虫数（サツマイモ）：並【0.00頭/0.00頭】 5月フェロモントラップ誘殺数：並【1.73頭/2.26頭】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	46
ナシ	黒星病	並	発病葉率：少【0.21%/0.74%】（-） 発病果率：並【0.21%/0.59%】 気象予報：降水量多（+）	24
	シンクイムシ類	やや多	被害果率：並【0.00%/0.00%】 5月フェロモントラップ誘殺数：やや多【1.26頭/1.08頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	25
	ハマキムシ類	並	被害葉率：やや少【0.00%/0.06%】（-）被害果率：並【0.00%/0.00%】 5月フェロモントラップ誘殺数：並【2.50頭/2.58頭】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	26
	アブラムシ類	並	成幼虫寄生新梢率：並【0.94%/2.94%】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	24
温州ミカン	そうか病	やや多	発病葉率：並【1.60%/1.40%】 気象予報：気温高（+）降水量多（+）	26
	ミカンハダニ	やや少	成虫寄生葉率：やや少【0.60%/5.92%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	28
ビワ	灰斑病	やや少	発病葉率：少【0.25%/2.30%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量多（+）	-
果樹共通	カメムシ類	やや多	5月フェロモントラップ誘殺数：やや多【9.32頭/5.08頭】（+） 被害果率（ナシ）：並【0.00%/0.02%】 払落虫数（温州ミカン）：並【0.00頭/0.08頭】 気象予報：気温高（+）降水量多（-）	28

* 1 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

* 2 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

(1) 紋枯病（イネ）

例年発生がみられるほ場では[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（水稲-4）](#)を参考に防除を行う。



(2) イネクロカメムシ（イネ）

特に県南地域で多いので、発生がみられるほ場では[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（水稲-8）](#)を参考に防除を行う。



(3) ニカメイガ（イネ）

発生がみられるほ場では[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（水稲-8）](#)を参考に防除を行う。



(4) イネカメムシ（イネ）

[令和7年度病害虫発生予報第3号P3「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



(5) ナカジロシタバ（サツマイモ）

[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針普通作物さつまいも\(かんしょ\)P3](#)も参照する。



(6) 炭そ病（スイカ）

梅雨の多湿環境で拡大しやすいため、病葉の除去及び、晴れ間を狙った7～10日間隔の予防的薬剤散布を実施する。[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針野菜（6）すいかP3](#)及び、記載の農薬登録情報も参照する。



(7) シンクイムシ類（ナシ）

[令和8年度病害虫発生予察第2号P4「これから注意を要する病害虫」](#)も参照する。



(8) そうか病（温州ミカン）

[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（2）温州みかん](#)を参照する。



(9) 果樹カメムシ類

[令和8年度病害虫発生予察注意報第1号「果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）越冬後成虫多発生のおそれ」](#)も参照する。



Ⅱ これから注意を要する病害虫

サトイモ 疫病

病原菌は、卵菌類の一種で、サトイモ属の植物にのみ感染する。本菌の生育温度は10～35℃で、20～22℃で遊走子（べん毛を持ち水中を泳ぐ胞子）を大量に形成し、水を介して伝染する。本病の初発が確認された時期は、平成30年度から令和3年度に県内主要産地で行われた調査では、年により6月20日～7月22日と幅があった。しかし、いずれも「日平均気温が25℃を超え、まとまった雨又は少量でも数日に渡る降雨の後」に発生していた。発生後は風雨の飛沫により伝染が拡大し、特に台風等で風雨が強まると急速に発病が拡大して、甚大な被害となる。

このため、上記の初発生の気象条件が出現する前から、予防効果のある薬剤を散布し、発病を確認後は、速やかに治療効果のある薬剤を散布する必要がある。

そして、本病による被害を最小限に抑えるためには、薬剤による適期防除と伝染源の除去等を組み合わせた、総合防除を行うことが重要である。

<主な発生部位と症状および伝染形態>

葉では、暗褐色の輪紋状の病斑を生じ（写真1）、病斑はしだいに拡大、融合して破れやすくなる。擦れや破れで損傷した葉や、下位葉において発生しやすい。葉柄では、黒いシミ状の病斑を生じ、病斑が拡大すると発病部位から折れて葉が失われる（写真2）。このため、生育早期に本病が多発すると、光合成量が減り減収する。

また、本病の発病部位から軟腐病菌が重複感染すると、被害が拡大する。

最初の伝染源は、本菌が感染した種いもやほ場周辺に放置された残さ、残さから発生した野生の株である。葉や葉柄の病斑上に形成された遊走子が、風雨や畝間に溜まった水等を介して、感染が始まると考えられている。



写真1 葉に発生した病斑

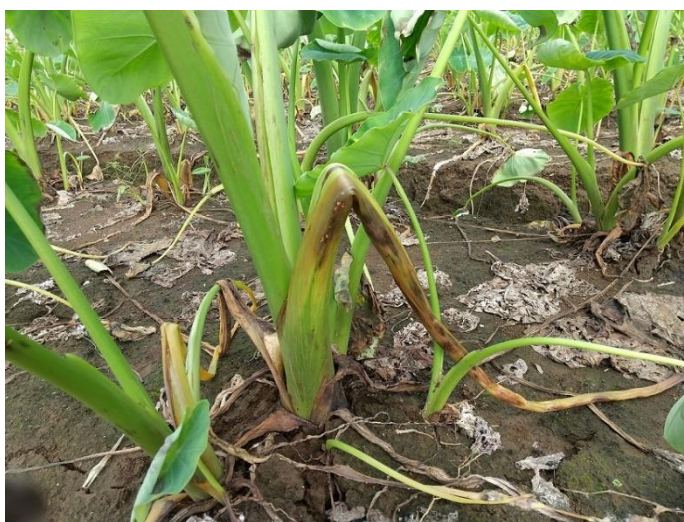


写真2 病斑部から折れた葉柄

<防除対策>

1 耕種的・物理的防除

- (1) ほ場の排水対策を徹底する。
- (2) 初発生の気象条件（日平均気温が25℃超で、まとまった雨又は少量でも数日に渡る降雨）が現れたら、数日おきにほ場を観察し、本病の早期発見に努める。発病した茎葉は、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 発病したほ場の収穫残さは伝染源となるので、発生ほ場は収穫後にロータリーで耕耘して残さを破碎する。残さの分解を促進するため、複数回耕耘する。
- (4) ほ場周辺の野良生え株は伝染源となるので、除去するか登録のある除草剤で枯死させる。
- (5) 次作の種いもには、発病のないほ場から得た、健全な塊茎を使用する。

2 化学的防除

- (1) 薬液が下位葉や株元まで届くように、ほ場内に通路や散布スペースを設けておく。
- (2) 表を参考に薬剤防除する。薬剤散布の際は、展着剤※1を加えて薬液を葉に十分付着させる。
- (3) 初発生の気象条件が現れる前に、予防効果のある薬剤（ジーファイン水和剤、ペンコゼブ水和剤等）を散布する。
- (4) 発病を確認したら、できるだけ早期に治療効果のある薬剤（ダイナモ顆粒水和剤等）を散布し、その後も定期的に薬剤散布を行う。
- (5) 耐性菌を生じやすいので、FRACコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。

表 サトイモの疫病に対する登録農薬（散布剤、令和8年6月10日現在）

主な効果	FRACコード ※2	農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数
予防	21	ランマンフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
	M1	IC ボルドー66D	100倍	発病前～発病初期	—
	NC+M1	ジーファイン水和剤	1,000倍	収穫前日まで	—
	M3	ペンコゼブ水和剤	500倍	収穫7日前まで	2回以内
		ジマンダイセン水和剤			
	40+49	オロンディスウルトラ SC	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内
U17	ピシロックフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	
治療	11	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
	21+27	ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	収穫21日前まで	3回以内
	40+M3	カンパネラ水和剤 ／ベネセット水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内

※1 展着剤（スカッシュ）の使用では、薬剤の効果が低下した事例も報告されている。
 <引用文献：サトイモ疫病対策マニュアル(2020年版) 令和2年1月サトイモ産地を救う研究開発コンソーシアム>。

※2 FRACコードとは、殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。

注 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

Ⅲ 参考資料

○ 主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・スイカ・サトイモ：6月上旬、果樹：5月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	いもち病	葉いもち発病株率	0.00	0.03	0.00	
	ばか苗病	発病株率（％）	0.06	0.08	0.00	
	紋枯病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	イネミズゾウムシ	被害度	9.94	9.49	14.09	
	イネゾウムシ	被害度	2.96	1.82	3.26	
	イネドロオイムシ	被害度	1.29	2.33	4.33	
	スクミリンゴガイ	被害株率（％）	1.89	2.51	4.74	
		1㎡当たり貝数	0.78	0.36	0.59	
		発生ほ場率（％）	21.43	16.61	20.00	
	セジロウンカ	25株当たり寄生成幼虫数	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.57	0.10	0.20	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生成幼虫数	0.01	0.01	0.00	
	セジロウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.01	0.02	0.04	
	ヒメトビウンカ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.77	0.50	0.42	
	ツマグロヨコバイ	20回振りすくい取り成幼虫数	0.01	0.02	0.04	
サツマイモ (印旛、香取)	立枯病	発病株率（％）	0.00	0.00	0.00	
	イモキバガ	被害葉率（％）	0.00	0.30	0.00	
	ナカジロシタバ	寄生成幼虫数	0.60	0.06	0.00	
スイカ (山武、印旛)	つる枯病	発病葉率（％）	0.00	0.28	0.00	
	炭そ病	発病葉率（％）	1.60	1.84	17.80	
	うどんこ病	発病葉率（％）	1.80	4.20	2.40	
		発病株率（％）	3.60	7.44	5.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	2.60	5.08	0.80	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	0.40	5.10	2.20	
サトイモ (山武、印旛、君津)	ワタアブラムシ	成幼虫寄生葉率（％）	37.07	34.70	46.67	
		成幼虫寄生程度	10.33	10.06	17.60	
	カンザワハダニ	成虫寄生葉率（％）	5.33	11.54	12.00	
		成虫寄生程度	1.73	4.17	5.27	
ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（％）	0.00	0.08	0.53		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率（％）	0.21	0.74	0.39	
	赤星病	発病葉率（％）	0.00	0.08	0.00	
	シンクイムシ類	被害果率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率（％）	0.00	0.06	0.03	
	ハダニ類	成虫寄生葉率（％）	0.03	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.94	2.94	0.58	
	カメムシ類	被害果率（％）	0.00	0.02	0.03	
温州ミカン (安房)	そうか病	発病葉率（％）	1.60	1.40	5.80	
	かいよう病	発病葉率（％）	0.00	0.08	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.00	0.00	
	ミカンハダニ	成虫寄生葉率（％）	0.60	5.92	4.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率（％）	0.60	0.80	0.40	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率（％）	7.60	0.70	0.00	
	カメムシ類	払落虫数	0.00	0.08	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率（％）	0.25	2.30	0.50	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率（％）	0.00	0.10	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.23	0.25	

トラップ月間誘殺数（5月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考*
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	セジロウンカ	千葉	0.0	0.0	0.0	頭/月
		香取	0.0	0.0	0.0	
		安房	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	千葉	0.0	0.0	0.0	
		香取	0.0	0.0	0.0	
		安房	0.0	0.2	0.0	
	ニカメイガ	千葉	128.7	9.2	54.8	
		香取	10.6	8.0	5.8	
		安房	3.9	1.5	6.8	
	イネクロカメムシ	千葉	2.9	38.4	5.2	
		香取	7.7	22.7	14.5	
		安房	97.7	13.9	6.8	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.54	0.33	0.09	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.05	0.19	0.16	
	コナガ	海匝	2.03	5.98	9.64	
	ハスモンヨトウ	県内全域	1.73	2.26	3.48	
	シロイチモジヨトウ	東葛飾、安房、君津	1.00	0.26	0.57	
	オオタバコガ	県内全域	1.84	0.91	1.41	
	タバコガ	県内全域	0.18	0.16	0.17	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.24	1.08	1.23	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.02	0.00	0.00	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.81	0.98	1.28	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.69	1.59	2.94	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	8.12	4.07	1.45	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.84	0.68	0.10	
	クサギカメムシ	〃	0.36	0.33	0.03	
	マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）	〃	0.49	0.75	0.24	

* 種類別の単位の違いに注意。月は30日当たりに補正。

○気象予報

6月11日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

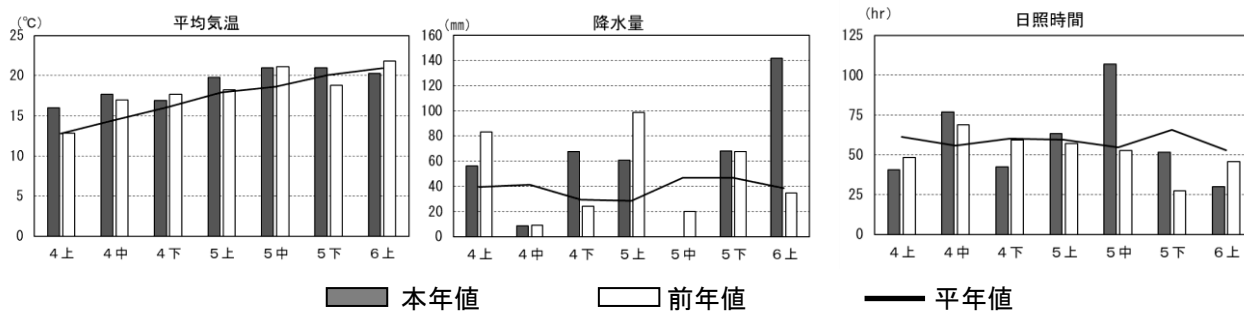
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	30	50
降水量	20	30	50
日照時間	30	40	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(6月13日～7月12日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	23.5	21.4	23.0
降水量(mm)	165.6	173.9	229.2
日照時間(hr)	124.7	134.4	132.1



過去2か月の気象概況 (アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

6～8月は農薬危害防止月間です。

農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 無登録農薬の使用はできません。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

メールの配信サービスも実施しています(要事前登録)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は令和8年7月15日です。

なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県HPで公開されています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

